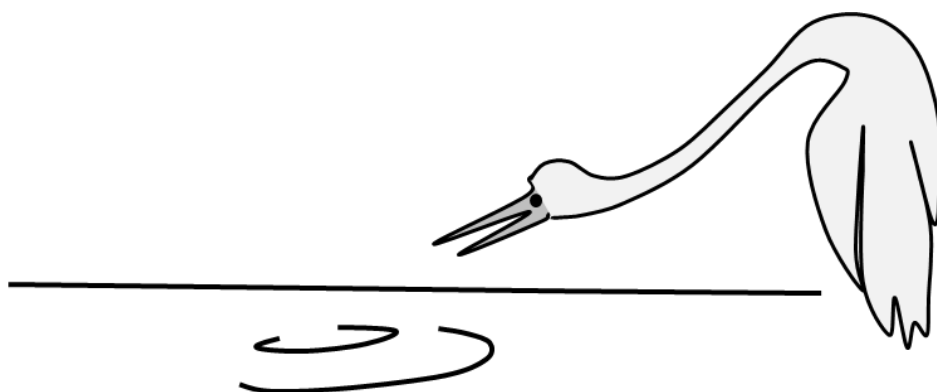


とくていぎのう
特定技能

ぎょぎょうぎのうそくていしけん ぎょぎょう がくしゅうようてきすと
漁業技能測定試験（漁業）学習用テキスト

あんぜんかんけい
（安全関係）



いっぽんしゃだんほうじんだいにほんすいさんかい
一般社団法人大日本水産会

しょはん ねん がつ
（初版2019年12月）

いちぶかいてい ねん がつ
（一部改訂2025年9月）

もく じ
目 次

1. 安全な服装	1
2. 安全な乗船活動	4
3. 船内行動	4
4. 安全標識	4
5. 事故防止対策	8
6. 海中転落の危機対応	9

1. 安全な服装

(1) 安全保護具

安全対策として、“保護具の着用”がある。保護具の着用は安全を保つための手段である。

主な保護具は、次の通り。

- ・ 頭： 安全帽（ヘルメット）
- ・ 目： 眼鏡、ゴーグル
- ・ 耳：（耳せん、マフ）
- ・ 顔： 保護面
- ・ 手： ゴム手袋
- ・ 足： 安全靴、長靴
- ・ 皮膚： 作業着（かっぱ）
- ・ 身体： 高所用安全ベルト

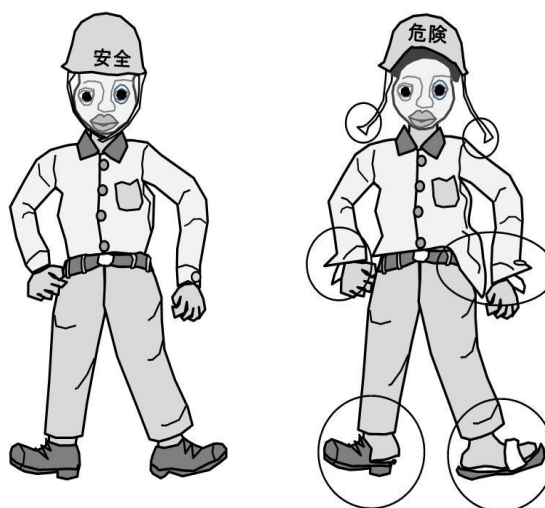


図1 服装（左）と危険な服装（右）

(2) 作業着

身体に合った長袖の作業着を着用する。操業中および甲板では、上着のすそはズボンに入れ、服のそでのボタンをしっかりと留め、機器による巻き込みや、引っかかりを防止する。操業中及び甲板では、スリッパやサンダルなどの足先の露出が多い履物は、滑りやすく落下物に対して足を保護できないので使用しない。（図1）

(3) 安全帽（ヘルメット）等の保護具

操業中及び作業中は、船内のはりや機械類に頭をぶついたり、落下物から頭を保護するために安全帽を着用する。安全帽はまっすぐにかぶり、あごひもをしっかりと結ばないと安全性は保てない。

船内作業に応じて、手袋、安全靴及び長靴を使用する。マスト等の高所作業や船外より体を乗り出して作業をする場合は安全ベルト・命綱を装着する。

（4）ライフジャケット（救命胴衣）

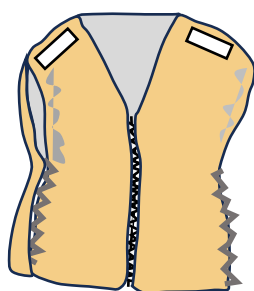
①ライフジャケット（救命胴衣）の種類

固型式：浮力体に発砲プラスチックなどの固型物を使用しており、シンプルな構造

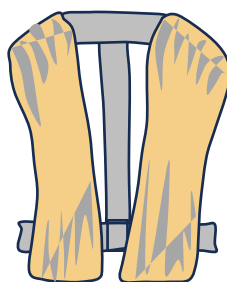
のもの代表的な形状ものにチョッキ式がある。

膨脹式：浮力体として炭酸ガスなどを使用するため、通常は、非常に薄く

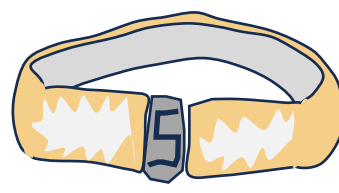
コンパクト。主な形状としては、首掛け式、ベルト式などがある。



チョッキ式



首掛け式



ベルト式

図2 ライフジャケット（救命胴衣）の種類

②ライフジャケットの装着

・操業中及び甲板（デッキ）では、作業用救命衣あるいは救命胴着を装着する。

装着の際、チャックや紐は確実に締めて救命胴衣が外れないようにする。

・作業着で仕事をする場合は、作業着の上に装着する。膨脹式の例は図の通り。

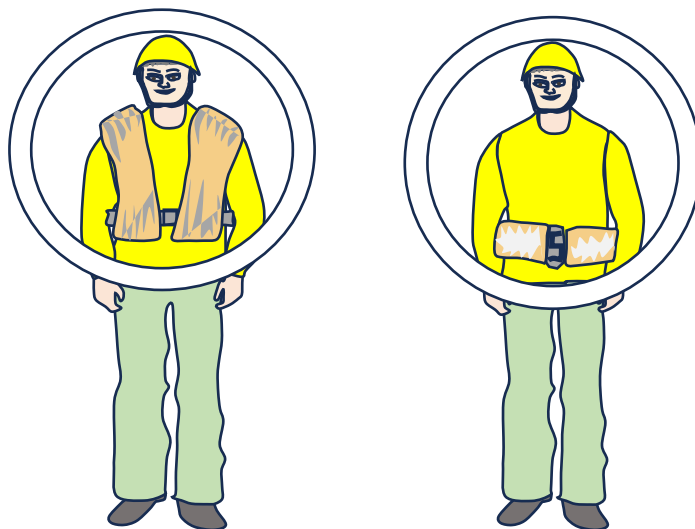


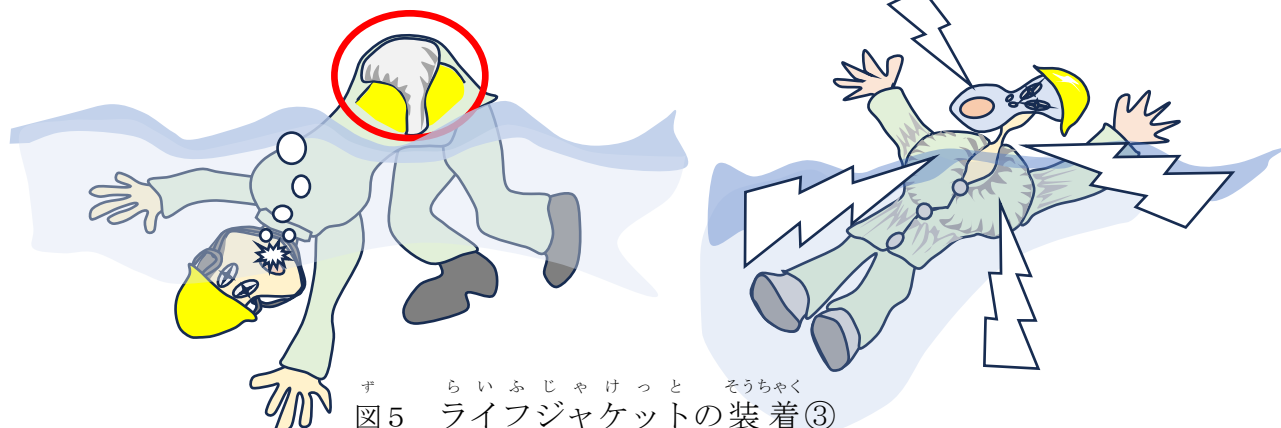
図3 ライフジャケットの装着①

- さぎょう　とき　か　っ　ぱ　ぼうかんぎ　さぎょうぎ　うえ　き　ばあい　いちばんうえ
 ・作業をする時にカッパ、防寒着などを作業着の上に着る場合は、一番上に
 らいふじゃけつと　そうちやく　ぼうちようしき　かる　うす　か　っ　ぱ　した　そうちやく
 ライフジャケットを装着する。膨脹式は軽くて薄いのでカッパの下にも装着でき
 ますが、間違いです。



ず　らいふじゃけつと　そうちやく
 図4 ライフジャケットの装着②

らいふじゃけつと　か　っ　ぱ　した　そうちやく　らくすい　とき　かいちゆう　いじよう　ふりよく
 ライフジャケットをカッパの下に装着すると、落水した時に海中で異常な浮力
 けいじよう　いき　くび　し　げんしよう　はっせい
 形状になることがあり、息ができなくなったり、首が締められたりする現象が発生
 きけん　じょうたい　らいふじゃけつと　かなら　か　っ　ぱ　うえ
 して危険な状態になることがあります。ライフジャケットは必ずカッパの上に
 そうちやく　あんぜん　かくほ
 装着しないと安全を確保できません。



ず　らいふじゃけつと　そうちやく
 図5 ライフジャケットの装着③

(5) 合羽・長靴

操業及び悪天候時の作業の場合は、合羽と長靴を装着する。長靴は、靴底が滑りにくい材質や滑り止め構造があるものを着用する。

2. 安全な乗船活動

- ・積んでいる漁具や道具は決められた場所に確実に収納し、船の動揺で崩れたり、散在しないように固定する。ロープ類、網糸、網地類も整理・整頓しておく。
- ・ハッチのふたは確実に閉め、開きかけのふたの上には乗らない。
- ・長靴、合羽、バケツ等も整理・整頓して、必要に応じて使えるようにする。
- ・清潔な作業場では、人は安全な行動を取ることができるし、整理・整頓が機能する。そのために船内や操業する甲板は常に清潔に清掃することを心がける。

3. 船内行動

- ・船内の事故防止の安全標識、表示等を日頃から確認しておき、厳守する。
- ・操業や作業を除き、日没後に甲板に出ると海中転落の危険が増えるので、むやみに一人で出るとは避ける。夜間、甲板に出る時には必ず他の乗組員に伝える。
- ・海中転落を防ぐために舷側（ブルワーク）に腰かけたり、登ることは避ける。

4. 安全標識

事故防止するための安全標識は様々である。一般的に標識には、禁止標識、指示標識、注意標識、一般標識、案内標識等がある。また、パイプ等へ直接表示されるものもある。(図6、7-1、7-2)

禁止標識：立ち入り禁止、火気厳禁、禁煙、さわるな等

指示標識：保護帽着用、耳栓着用、安全確認等

注意標識：有害物注意、頭上注意、足元注意等

ちやくせつひようじ はいかん ひようじ いろ まみず あぶらるい かいすい とお
 直接表示：配管に表示されている色により、真水、油類、海水を通していること
 きいろ くろ ろーぶ とらろーぶ よ
 がわかる。また、黄色と黒にぬられたロープは、トラロープと呼ばれ
 きけん ぼしょ は
 危険な場所に張られる。



たちいりきんし
立入禁止



か きげんきん
火気厳禁



ほごぼうちゃくよう
保護帽着用



みみせんちゃくよう
耳栓着用

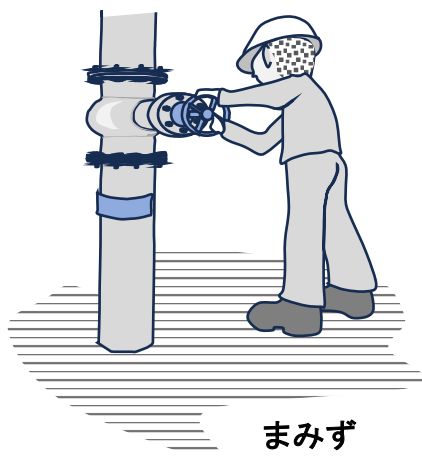


あしもとちゅうい
足元注意

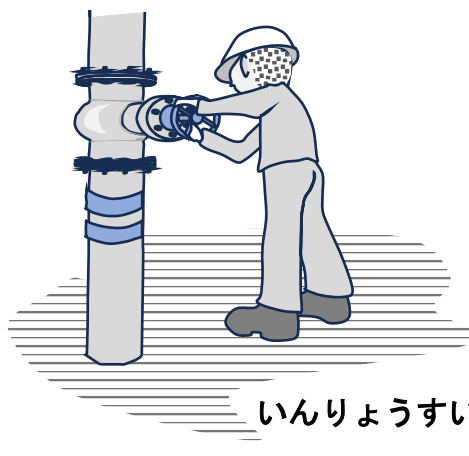


ずじょうちゅうい
頭上注意

ず
図6 禁止標識、指示標識及び注意標識の例

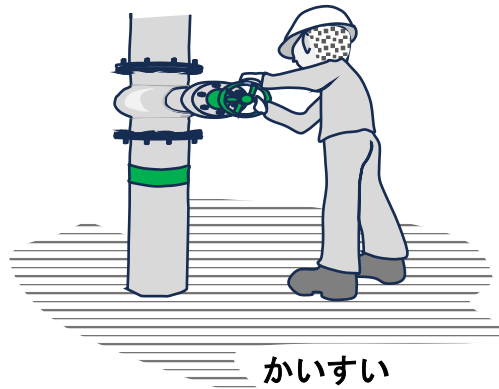
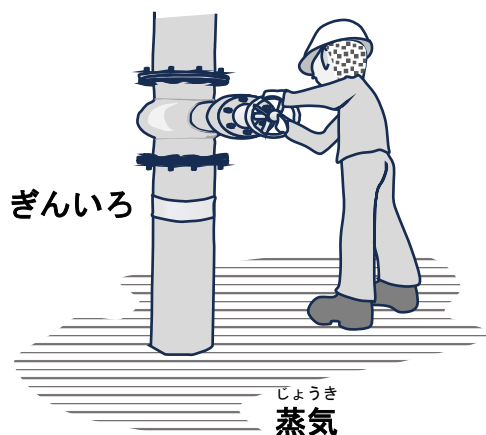
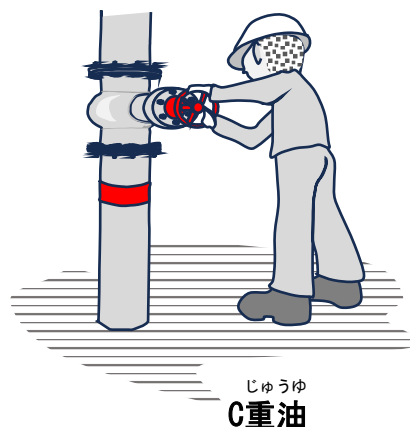
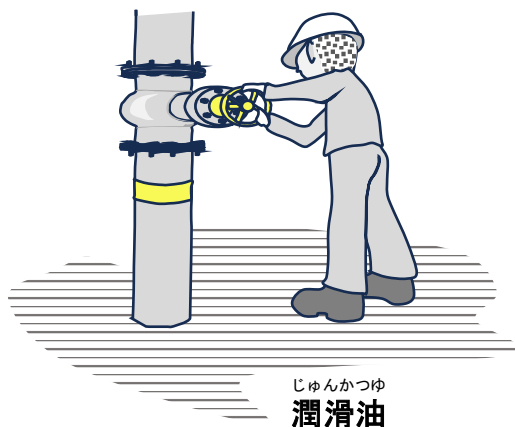


まみず



いんりょうすい

ず
図7-1 直接表示の例



ず ちよくせつひょうじ れい
図7-2 直接表示の例

ぎよせん あんぜんひょうしき (2) 漁船の安全標識

ぎよせん きけん せんいん けいこく かくしゅ あんぜんひょうしき つか
漁船では危険について船員に警告するために各種の安全標識が使われている。
ひょうしき ほそく ずきごう いろ けいじょう く あんぜんじょう でんたつないよう りかい
標識を補足する図記号は、色、形状の組み合わせにより安全上の伝達内容の理解を
ようい きけんせい たか ひょうしき ずきごう いちぶ つぎ しめ いろ きてい
容易にする。危険性の高い標識の図記号の一部を次に示す（色は規定されているが、
くろ けいじょう あらわ
ここでは黒で形状を表す）。

きごう ①記号

きんしじこう いみ きごう かくしゅ ず く あ きんし あらわ
禁止事項を意味する記号。各種の図と組み合わせて禁止を表す。



ず きごう
図8 記号①

ず きごう
②図記号

- かがくてききけん い み ず きごう
・ 化学的危険を意味する図記号



どくせい い み
毒性を意味する



ゆうどく い み
有毒ガスを意味する

ず きごう
図 9 記号②

- でんきてききけん い み ず きごう かんでん い み
・ 電氣的危険を意味する図記号 いずれも感電おそれを意味する。



ず きごう
図 1 0 記号③

- てんらく い み ず きごう
・ 転落、スリップを意味する図記号



こうしょ てんらく
高所からの転落



すりっぷ
スリップ

ず きごう
図 1 1 記号④

- きかいてききけん い み ず きごう
・ 機械的危険を意味する図記号



かいてんぶついつぱん
回転物一般



かいてんべると
回転ベルト

ず きごう
図 1 2 記号⑤

- ねつてききけん い み ず きごう
・熱的危険を意味する図記号



いんようきんし
飲用禁止



か き げんきん
火気厳禁



たちいりきんし
立入禁止

ず きごう
図 1 3 記号⑥

5. 事故防止対策

ぎょぎょう ろうどうさぎょう あんぜん かくほ じ こ ぼうし つねにかくじ こうどう
漁業の労働作業における安全を確保し、事故を防止するためには、常に各自の行動
じ こ そうてい あんぜんかくにん じゅくれんしゃ きけん さぎょう ひとり
について事故を想定して安全確認をおこなわず、また、熟練者でも危険な作業は一人
おこな と く ひつよう そうてい おも じ こ ぎょうろ
で行わないように取り組むことが必要である。想定される主な事故としては、漁労
さぎょうちゅう さどうちゅう ぎょぐ せんぐなど ふしょう てんとう じ こ おお どりつく くれーん
作業中の作動中の漁具、船具等による負傷や転倒事故が多く、デリックやクレーン
そうさちゅう らっか じ こ ぎょうろき き とく ういんちるい ま こ じ こ だいじこ
操作中の落下事故や漁労機器、特にウインチ類による巻き込み事故は重大事故につな
ぎょうちゅう きかい さい じゅうぶんちゅうい じゅうよう
りやすい。そのため、作動中の機械を扱う際には十分注意することが重要である。
ぎょかくぶつ け が しょしんしゃ おお つぎ あんぜんかくにん と く さぎょう
また、漁獲物による怪我は、初心者に多い。次のような安全確認に取り組み、作業に
あたる。

- さぎょう おこな と き しゅうい じょうきょう じゅうぶん き くばり れんらく と あ すす
・作業を行う時は、周囲の状況に充分気を配り、連絡を取り合いながら進める。
- こいる ろーぷ わ なか あし からだ い
・コイルされたロープの輪の中に足、体を入れない。
- ふね じぶん ほ じ はんい おも こ じゅうりょうぶつ うんぱん ふくすう じんいん
・船のゆれに自分を保持できる範囲の重さを超える重量物の運搬は複数の人員で
おこな
行う。
- おも も ばあい ながぐつなど すべ くつ は
・重いものを持つ場合は長靴等の滑りにくい靴を履く。
- ぎょかくぶつ ぎょぐ ひきあ ふね かいこうぶふきん さぎょう かいちゅうてんらく
・漁獲物や漁具を引揚げためにもうけられた船の開口部付近の作業では、海中転落

きけん ちゅうい かいこうぶ せなか む さぎょう おこな
の危険があることを注意する。開口部に背中を向けて作業は行わない。

- さどうちゅう ろーぷ わーぷ わいやー ふようい ちか はだん ばあい
・作動中のロープやワープ（ワイヤー）には、不用意に近づかない。破断した場合の
ろーぷるい はんいなし さ さぎょう あ
ロープ類の動く範囲内を避けて作業に当たる。

- つ あ あみぎょぐ さどうちゅう でりっく くれーん など ました はい
・吊り上げられた網漁具、作動中のデリック、クレーン等の真下に入らない。

- ぎょうき きなど そうさ じゅくれんしゃ まか そうさ まか ばあい つね ていし
・漁労機器等の操作は、熟練者に任せる。操作を任される場合は、常に停止できる
じょうたい たも
状態を保つ。

- ぎょかくぶつ あつか ゆうがいぎょかいりい あつか じゅうぶんちゅうい し ぎょかいりい
・漁獲物の扱いでは、有害魚介類の扱いに充分注意する。知らない魚介類について
しゅうい のりくみいん き あつか
は周囲の乗組員に聞いてから扱う。

- ぎょかくぶつしより はものるい あつか じぶん ほか ひと きず ちゅうい
・漁獲物処理のときは、刃物類の扱いは、自分や他の人を傷つけないように注意する。

- ぎょかくぶつしよりご こうはん さかな ち あぶら など すべ あら おと
・漁獲物処理後の甲板は魚の血、油、ぬめり等で滑りやすいので、すぐに洗い落とす。

- こうはん さかな すかっぱー つ き つ
・甲板にこぼれた魚がスカッパに詰まらないように気を付ける。

6. 海中転落の危機対応

かいちゅうてんらく ききたいおう
海中転落事故は操業中に限らず、漁船事故の中でも一番起こりやすいので注意
ひつよう きほんてき にんげん からだ みず う ちゃくいおよ かっぱ そうちやく じょうたい
が必要である。基本的に人間の体は水に浮き、着衣及び合羽を装着した状態ではさ
う じりき たす むり およ いふく み つ
らに浮きやすくなっている。自力で助かろうと無理に泳いだりせず、衣服を身に着け
からだ あおむ こきゅう かくほ う じょうたい いじ きゅうじよ ま
たま、体を仰向けにして呼吸を確保し、浮いた状態を維持し、救助を待つことで、
いのち たす かのうせい たか ひと うみ み そくご しゅうい おおごえ
命の助かる可能性が高くなる。また、人が海に落ちたのを見たら即座に周囲に大声で
し ちか う わ らいふい うみ な い じゅうよう
知らせ、近くにある浮き輪（ライフブイ）などを海に投げ入れることが重要である。

- すいちゅう お ばあい じぶんじしん ちから たす たす
・水中に落ちてしまった場合、自分自身の力で助かろうとすることがなく、助け
く う じょうたい ま
が来るまで浮いた状態で待つ。

- すいちゅう しず あし うご ばたあし ころーる みず うえ てあし だ い
・水中で静かに足を動かす。バタ足、クロールといった水の上に手足を出し入れする
どうさ こうちゅう からだ だ
動作はせず、空中に身体を出さない。

- そうぎょうちゅう かっぱ ながづつ そうちやく らくすい ながづつ ぬ さか
・操業中は、合羽と長靴を装着しているので、落水したら長靴を脱いで、逆さまに

ないぶ くうき い うき つか ず
して内部に空気を入れ、浮として使う。(図14)



ず ながぐつ うき きゅうじょ ま
図14 長靴を浮にして救助を待つ

- びにーるぶくろ ペっとぼとる ちか う きゅうめいようぐ りよう
ビニール袋、ペットボトルなどが近くにあれば、浮くもの(救命用具)として利用
する。(ペットボトルやビニール袋に空気を入れ、胸にかかえてあおむけになると
う
浮く。)
- きゅうじょろーぶ な ばあい ろーぶ からだ こし むす
救助ロープを投げられた場合、ロープを体(腰)にまわして、もやい結び(Bowline
knot)で輪を作り、輪がしまらないようにして、ひきあげてもらう。
- きゅうじょうきわ な ばあい うきわ こし いち ひ つな にぎ ひ
救助浮輪を投げられた場合、浮輪をかぶり、腰の位置に止め、曳き綱を握り曳きあ
げてもらう。